

◆◆◆ 「東海・東南海沖ケーブル式常時海底地震観測システム」運用開始

気象庁では、東海地震・東南海地震の想定震源域における地震活動の詳細把握、緊急地震速報での地震発生早期検知・地震動予測精度向上等を目的として、平成16年度から海洋調査を含めて5カ年計画で御前崎から紀伊半島の東南沖（三重県沖）に至る新たなケーブル式常時海底地震観測システム（ケーブル全長：約210km、地震計設置箇所：5箇所）の整備を行ってきました。

海底地震計の敷設工事および同システムの動作確認を本年7月末に終了し、気象庁では8月1日に本庁へのデータ伝送を開始、引き続きセンサー設置の安定状態確認のためのデータモニターを実施しました。今般、観測データの点検結果、震源決定精度向上や検知能力向上が確認されました。これに伴い10月1日から地震監視業務での運用が、開始されました。このシステムで得られた観測データは、既設の御前崎沖海底地震計システム（ケーブル全長：約150km、地震計設置箇所数：4箇所）からの観測データとともに東海・東南海地震域の地震活動の監視に用いられるほか、緊急地震速報作成のための地震データとしての使用も予定されています。